

令和五年度 学位記授与式 式辞

式 辞

はじめに、本年一月一日に発生した能登半島地震で亡くなられた方に謹んでお悔やみ申し上げますと同時に、すべての被災者の方に心よりお見舞い申し上げます。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

また、ご家族の皆様にも心よりお祝いを申し上げます。

そしてお忙しい所ご臨席いただきましたご来賓の皆様には厚く御礼を申し上げます。

皆さんはこれから医療人として、医療現場という新しい世界に足を踏み入れることとなります。

新しい生活への期待感があると同時に、大きな不安も皆さんは感じているのではないでしょうか。

この場を借りて、一人の医療人として皆さんにアドバイスができればと思います。

皆さんの感じている不安は、人間関係に起因していることが多いと思います。

特に、新しい職場での人間関係を不安に感じていることだろうと思います。

これから皆さんの多くが働くことになる病院では様々な部署があり、皆さんはそのスタッフの一人として配属されます。

皆さんは臨地実習でいろいろな病院を回ったと思いますが、社会人として医療スタッフとして働くとなると、最初は知らないことばかりで戸惑う事ばかりです。私も随分前のことになりましたが、研修医としてスタートした時は、どこから手を付けたらいいのか途方に暮れていたことを思い出します。

しばらくすれば患者さんのケアや処置を任されるようになるのですが、こんなやり方でいいのか、患者さんにどう説明したらいいのか、疑問や悩みは尽きません。また、とても忙しく働いている上司や先輩にこんなことを聞いていいのか、注意されたらどうしようと悩むことも少なくありません。

そのような時は一人で解決しようとはせず、遠慮せずに周りに聞いてください。自分自身で調べることが、社会人としては欠かせません。しかし、耳学問という言葉があるように、上司や先輩に尋ねる、聞くこともまたとても大切なことです。

私も研修医時代に患者さんのことで誰にも相談せずに一人で抱えこんでいた時、指導医から「若いうちに人に聞かなかつたら、いつ聞くだ」と叱られたことを今でもはっきりと覚えています。

心の中で考えや想いを閉じ込めてしまえば、なかなか人には伝わりません。周りに疑問や悩みを打ち明けることで、お互いの気持ちや心が通じ合い、職場での人間関係も円滑になっていくことでしょう。

遠慮せず、はずかしがらずに周りに尋ねる、聞くという小さな勇気を持ってください。

その小さな勇気はきつと、私たち医療者の使命である患者さんのケアや支援への一助になると思います。

このことを心に留めて、皆さんが患者さんやご家族に信頼される医療人を目指して邁進できることを心より願っています。

以上を持ちまして、私の式辞とさせていただきます。

本日は誠におめでとうございます。

令和 六年 三月 十二日

藍野大学学長 佐々木 恵雲